

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 3 日 9:34 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,800～40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 39,600～42,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～103.546

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

8 月 5 日安値からの上昇が、第(4)波中 B 波に当たるのか、第(5)波による上昇に入ったかを判断するにはまだ少し時間が必要です。ただいずれにしても、25 年に日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、とみています。

半導体、テック、自動車などの主力株には、2 月～4 月に高値を付けたものが目立ちます。それら銘柄に対し、6 カ月信用期日接近に伴う売り戻し圧力が残るなか、日経平均は上値追いつとはいえずらいでしょう。

需給面に関していえば、9 月 13 日のメジャーSQ を境に建玉整理は相当程度進むと思われます。ただし、19 日未明(日本時間)の米 FOMC 結果公表、昼頃の日銀会合結果発表が、27 日には自民党総裁選の投開票があります。これら重要イベントを控え、9 月を通じてマーケットには様子見ムードが広がるかもしれません。



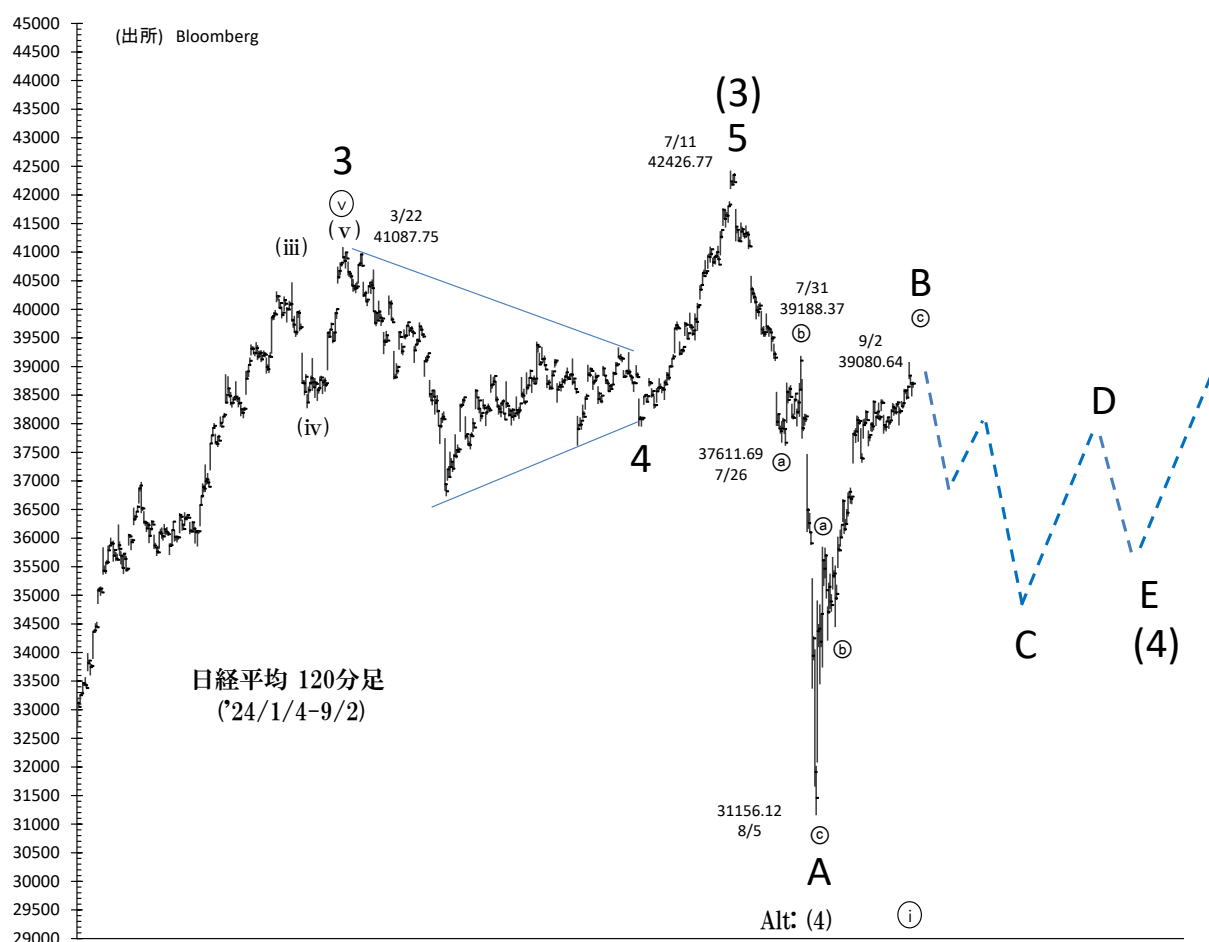
【日足 エリオット波動分析】

日経平均予想 EPS は 8 月 26 日に 2457.1 円に増え、初の EPS=2500 円が視野に入っています。
EPS2500 円、PER18 倍と仮定すると 4 万 5000 円という水準が得られますが、それは 25 年の日経平均
ターゲット候補として要注目です。

9 月 2 日に日経平均は一時 39,080 円へ上昇し、8 月からの戻り高値を更新しました。その後は売り売り
によって伸び悩みましたが、終値 38,700 円は(辛うじてですが)100 日 MA を上回っています。

※100 日 MA…38,587 円、200 日 MA…37,391 円(9/2)

短期的な注目点は、39,080 円を上抜くことの可否です。もしも 39,080 円を上抜けることになれば、次は 4
万円回復の道が開かれます。



【時間足 エリオット波動分析】

上チャートは、第(4)波を[トライアングル(A-B-C-D-E)]とみなし、その仮定に基づいた展開イメージを示しています。31,156 円(8/5 安値)からの上昇は、(4)-B 波とカウントされます。

39,080 円(9/2 高値)を上抜くと、(4)-B 波により、**39,188 円(7/31 高値)や[40,014 円](7 月からの下げに対する 78.6%戻り)などを試す可能性が高いでしょう。**

一方 37,304 円(8/16 安値)を終値で下回ると—この時点で 200 日 MA も下回ります— (4)-C 波による下落入りが見込まれます。この場合、C 波は B 波による上昇分の 50%-61.8%を打ち消す可能性があります。

NYダウ



【日足 エリオット波動分析】(9/2 はレイバーデーのため休場)

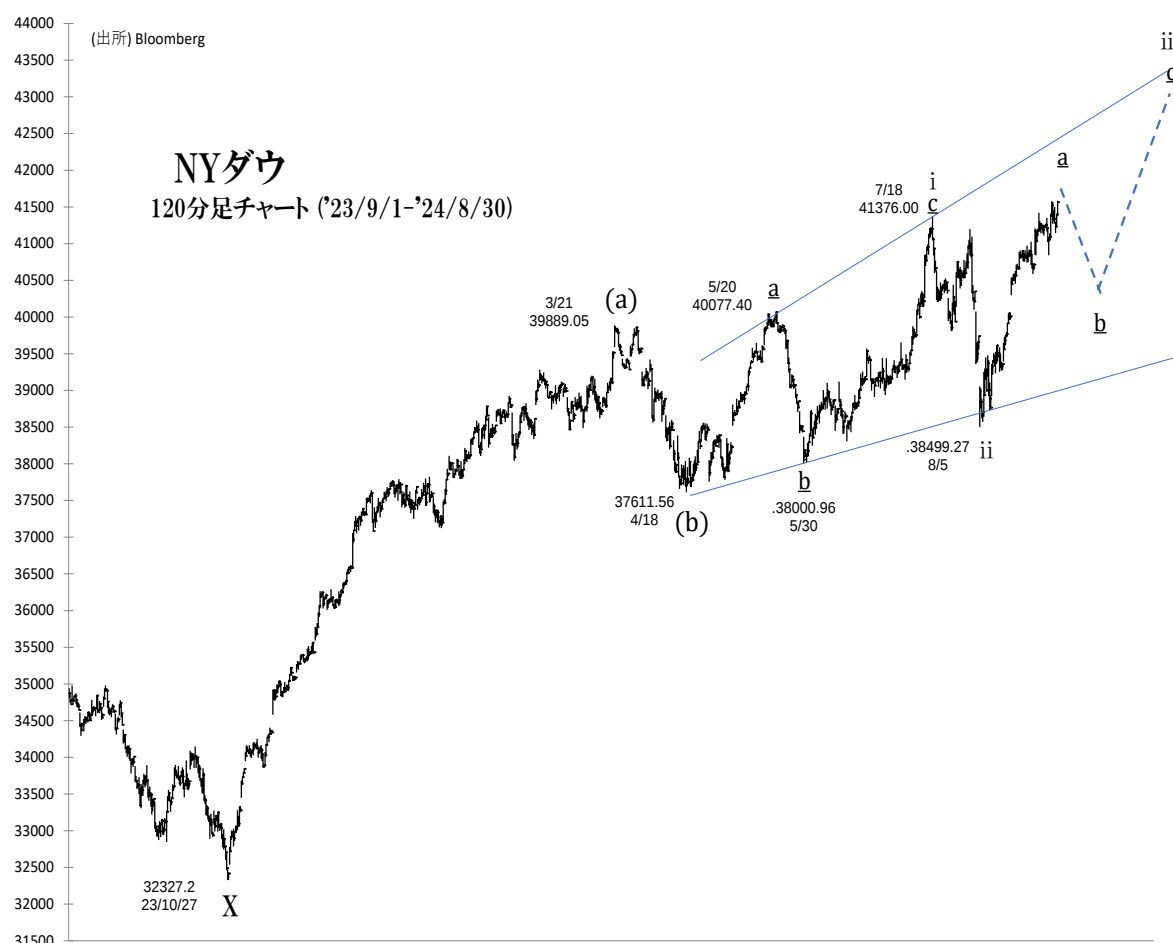
22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇は(B)波とカウントされ、(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ (W-X-Y)]です。

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの上昇が Y 波に当たり、その編成は [ジグザグ(a)-(b)-(c)]になります。さらに 37,611ドル(4/18 安値)からの上昇は、Y 波中(c)波に位置付けられます。この(c)波は、上昇局面の最後に現れる[エンディング・ダイアゴナル]とみています。

NY ダウは連日の最高値更新。8 月 30 日には一時 41,585ドルまで上昇しました。

[エンディング・ダイアゴナル]はまだ形成途中とみられます。

もっとも(c)波が完了後には、(C)波による調整が続くことになります。(C)波は 22 年 10 月安値を目指す、大きな下降波になることが想定されます。



【時間足 エリオット波動分析】

23 年 10 月安値・32,327ドルからの上昇は、Y 波に位置付けられます。それは(a)-(b)-(c)[ジグザグ]を形成しています。

37,611ドル(4/18 安値)からの上昇は(c)波に位置付けられます。

23 年 10 月～24 年 3 月までの上昇(a)波が、一貫して上昇する、シンプルな形状であるのに比べ、(c)波は波の重複が目立つチョッピー(choppy)な形状です。これは(c)波が[エンディング・ダイアゴナル]を形成中であることを示唆しています。

38,499ドル(8/5 安値)からは、(c)波中第 iii 波の上昇に位置付けられます。この第 iii 波は[ジグザグ(a-b-c)]編成です。

iii 波中の a 波は目先的にも完了し、b 波による調整に入ってもおかしくありませんが、その後に始まる c 波によって、NY ダウは一段と上昇することが見込まれます。

なお NY ダウが Y 波を完成するまでには、今後まだ数カ月から半年程度かかるとみられます。

NY ダウが天井を付けるのは来年の前半になりそうです。

ナスダック



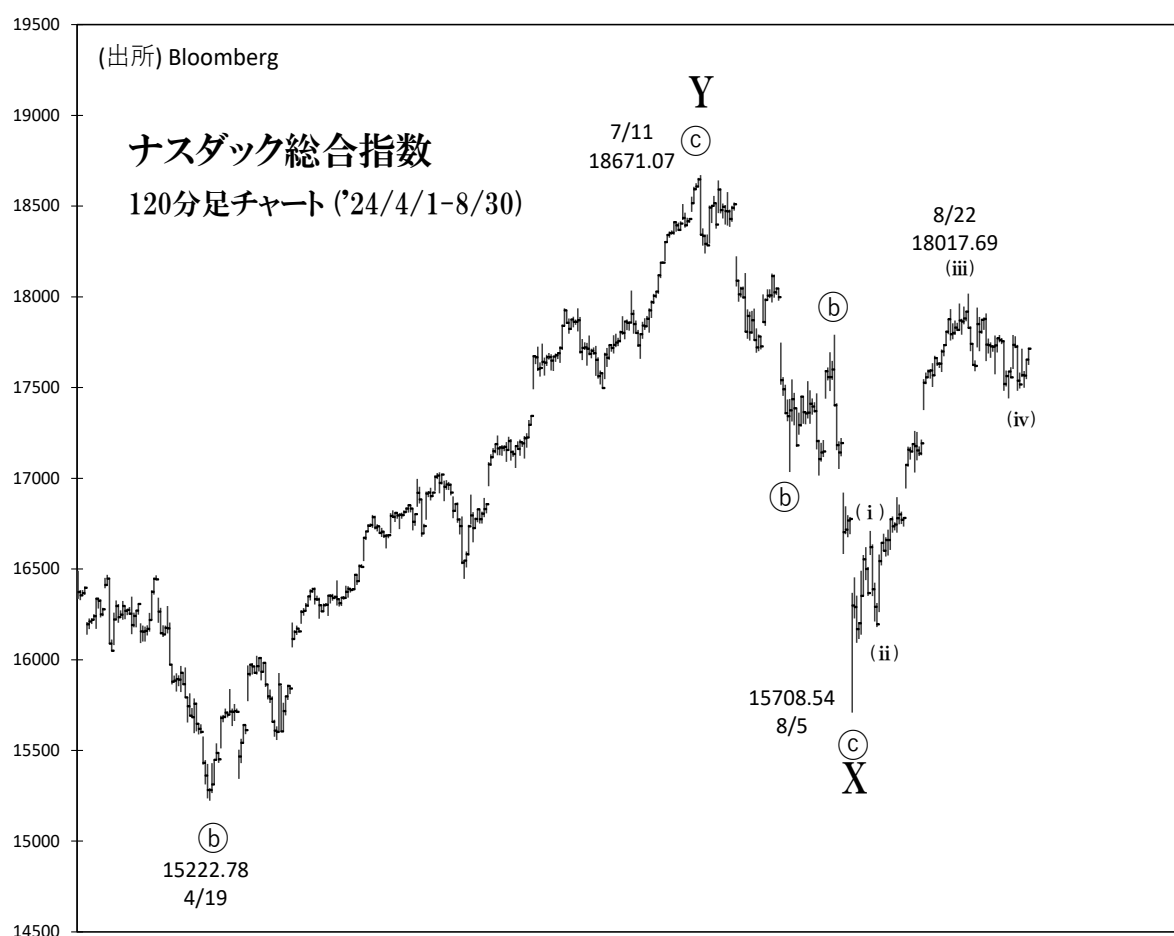
【週足 エリオット波動分析】(9/2 はレイバーデーのため休場)

22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、それは 25 年前半まで続くでしょう。

15,708(8/5 安値)からは Z 波の上昇に相当し、Z 波のパターンは[ジグザグ(a-b-c)]です。この Z 波によりナスダックは最高値を更新する可能性があります。

8 月 22 日にナスダックは一時 18,017 まで上昇しました。この水準は、7 月からの下げに対する 76.4%戻り水準[17,971]に近似となっています。短期的に 8 月 14 日-15 日のマド[17,260-17,375]への調整があるかもしれませんが—28 日には一時 17,439 まで下げました—上昇基調は継続するでしょう。

ただし筆者の見通しと異なり、15,708 を一時的にも下抜くようなら弱気シナリオが復活します。それは、18,671(7/11 高値)を以て(B)波は完成しており、既に(C)波による下落トレンドに入っている、というものです。



【時間足 エリオット波動分析】

15,708(8/5 安値)以来の上昇は Z 波とみられ、この見方通りなら、Z 波は[ジグザグ①-②-③]パターンを形成していくでしょう。

18,017(8/22 高値)から足元続く調整は、④波中第(iv)波とカウントできます。

この見方によれば、(iv)波の完成後には第(v)波による上昇が続き、18,017 を上抜くことになります。

第(v)波は 18,671(7/11 高値)を上抜く可能性もあるでしょう。

なお五波構成による②波完成後は、③波の調整局面入りが想定されます。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

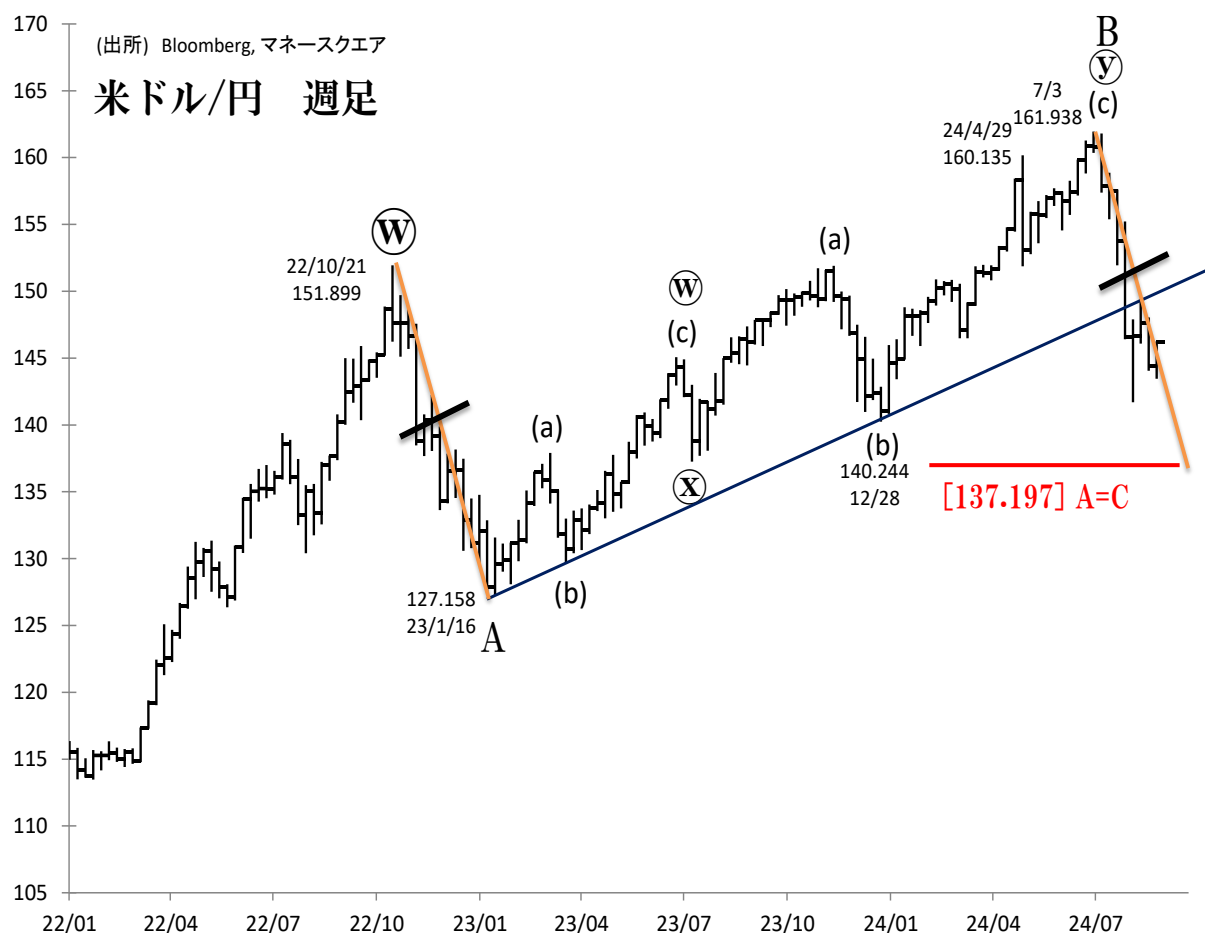
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安Ⓜ波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこからはⓍ波の「円高局面(トレンドではない)」が進行中です。このⓍ波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。

161.938円(7/3)は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。それはⓍ波中 B 波高値(イレギュラートップ/不規則天井)に位置付けられ、この波動カウントによれば、いまはⓍ波中 C 波によるドル安・円高が進行中です。

22年10月以来のⓍ波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。今月、①の水準は134.635円です。

一方②の場合には、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指し、より大きなドル安・円高になることが見込まれます。②の水準は今月、115.010円にあります。



【週足 エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円) からの A(↘)-B(↗)-C(↘) 編成において、23 年 1 月 (127.158 円) からの B 波は 161.938 円 (7/3) を以て完成しました。B 波終点の高値は A 波の始点高値を上回り、不規則天井 (イレギュラー・トップ) を形成しました。

161.938 円 (7/3) からは、C 波によるドル安・円高です。

C 波の長さについては、A 波が有効な「ものさし」になります。

A 波の長さは 24.741 円 (およそ 25 円) でしたから、C 波の長さも同様と考えると、**137 円辺り (厳密には 137.197 円) が C 波のターゲット**です。

なお 137 円を下抜くケースでは、先述した [134.635 円] のほか、[131.358 円] に注目です。

[131.358 円] … A 波の長さ (24.741 円) × 1.236 = C 波の長さ (30.579 円)

投機筋は円買い持ちを継続

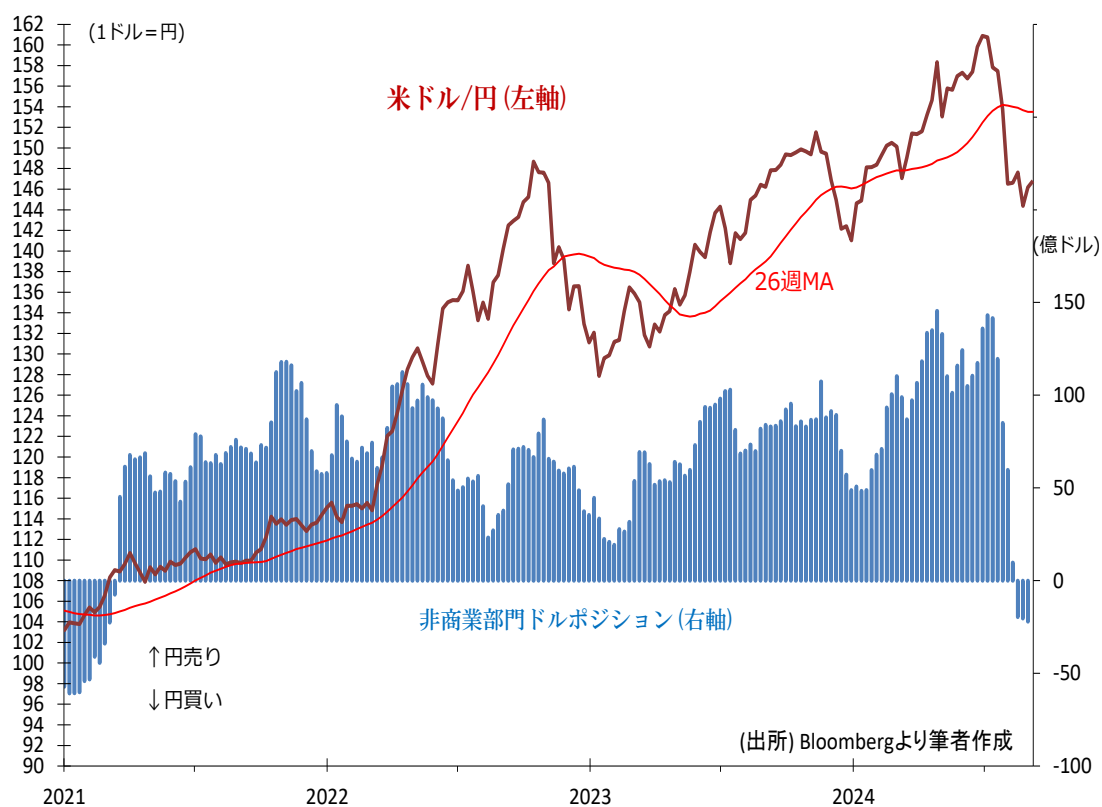
IMM 通貨先物市場での非商業部門 (投機筋 & ヘッジファンド) のドルポジションは、7 月 2 日時点で過去最大級の円売り越し (18.42 万枚、142.6 億ドル) でしたが、8 月 13 日には 3 年 5 カ月ぶりに円買い越しに転じました。

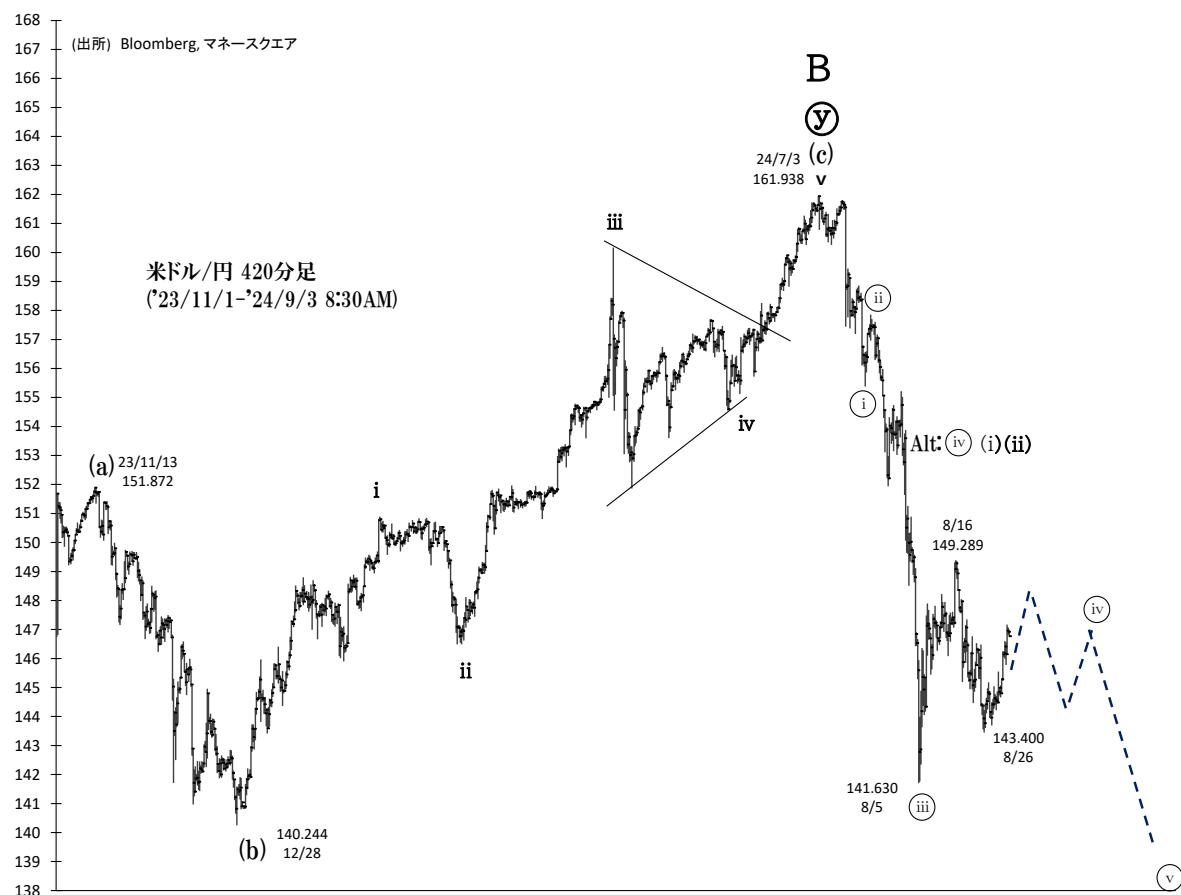
8月27日時点の投機筋ポジションは、2.58万枚(22.5億ドル)の円買い持ちです。

筆者の観測では、投機筋は26週MAをドル/円の強弱判定の目安としています。

ドル/円が今後も、26週MA(153.650円)を下回っている間は、投機筋によるドル売り・円買いの動きは継続する可能性があります。

数年間の「円キャリーによる円売り」から、7月の「円キャリー巻き戻し」を経て、足元は「投機筋による円買い」という新たな局面に入ったかもしれません。





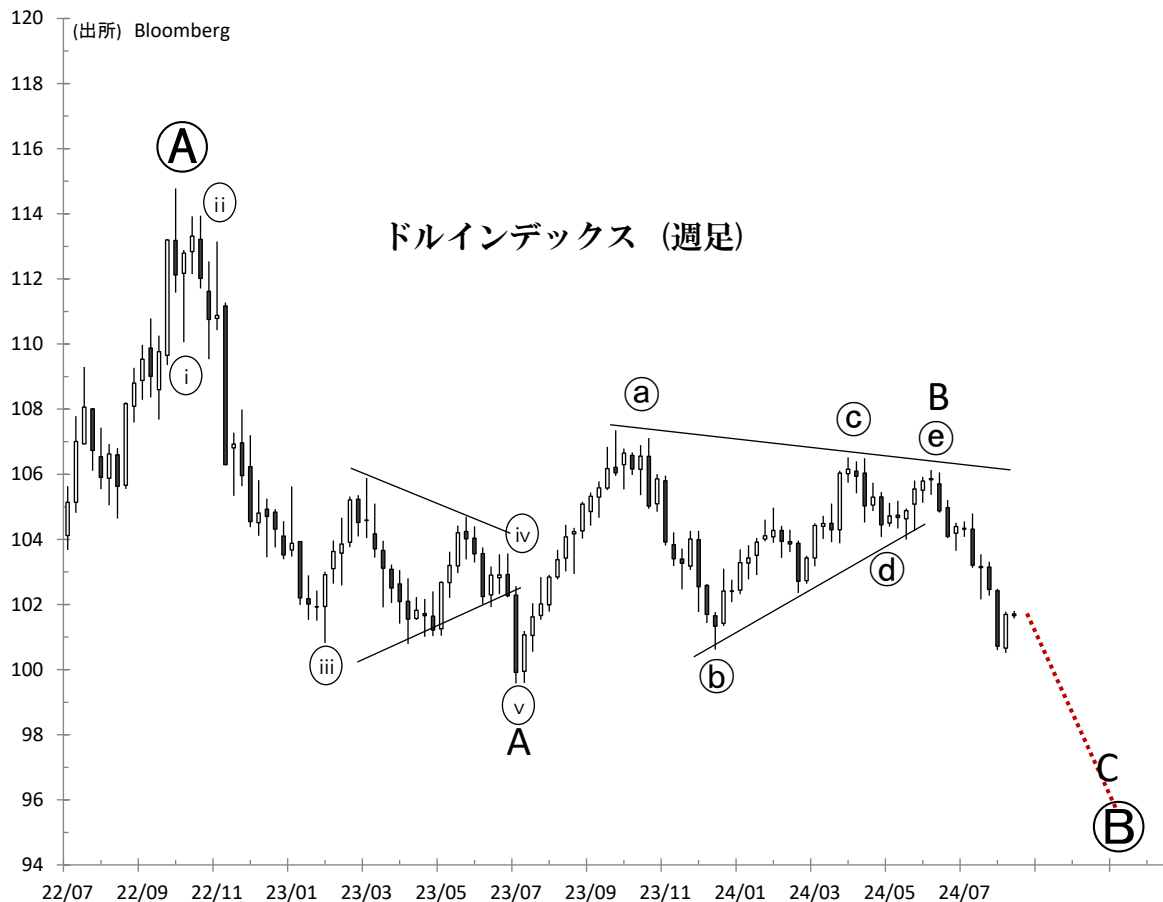
【時間足 エリオット波動分析】

基本的にドル/円が 141.630 円(8/5)を下抜くのは時間の問題とみていますが、目先的には以下二通りの展開がありそうです。

141.630 円(8/5)からのマル iv 波が[トライアングル]による保ち合いパターンを形成中なら、143.400 円からのリバウンドはマル iv 波中(c)波です。(c)波の後には(d)波(↘)、(e)波(↗)と続き、トライアングルは完成。その後ドル/円は、マル v 波による下落となります。

あるいは、149.289 円(8/16)から既にマル v 波による下落が進行中なら、足元はマル v 波中(ii)のリバウンドということになります。この見方によると、まもなく(iii)波のドル安・円高が到来し、それは 141.630 円を下抜くでしょう。

ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)はⒺ波による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、1 年間かけて[トライアングル]を完成し、現在は C 波によるドル安が進行中です。8 月 26 日には一時 100.534 まで下げましたが、これは 23 年 7 月 27 日以来 1 年 1 カ月ぶりドル安です。

足元はリバウンドとなっていますが、ドル安基調自体は今後も続き、**23 年安値(99.578)を下回るのは時間の問題**とみられます。

99.578 を下回った後、ドル指数は[92.148](N 計算値)を目指すでしょう。

Ⓔ波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、Ⓐ波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
